

# 世羅町学校施設等の個別施設計画

令和3年3月



広島県世羅郡世羅町

## 目 次

第1章	学校施設等の個別施設計画の背景・目的等	1
1.	背景	
2.	目的	
3.	計画期間	
4.	対象施設	
第2章	学校施設等のめざす姿	2
1.	基礎的・基本的な学力の定着と自主性を伸ばす教育環境の整備、学習空間の充実	
2.	安心・安全な施設環境の整備	
3.	防災拠点としての施設整備	
第3章	学校施設等の実態	3
1.	学校施設等の運営状況・活用状況の実態	
2.	学校施設等の老朽化状況の実態	
第4章	学校施設等整備の基本的な方針	11
1.	世羅町公共施設等総合管理計画の基本方針	
2.	学校施設等の長寿命化の基本方針	
3.	学校施設等の規模・配置計画等の方針	
4.	改修等の基本的な方針	
第5章	基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等	13
1.	改修等の整備水準	
2.	維持管理の項目・手法等	
第6章	長寿命化の実施計画	14
1.	改修等の優先順位付けと実施計画	
2.	長寿命化コストの見直し、長寿命化の効果	
第7章	計画の継続的運用方針	15
1.	情報基盤の整備と活用	
2.	推進体制の整備	
3.	フォローアップ	

## 第1章 学校施設等の個別施設計画の背景・目的等

### 1. 背景

学校施設は、子どもたちの学習・生活の場であり、学校教育活動を行うための施設であることから、必要十分な教育活動が行える機能や環境を整えるとともに、防犯・防災性を備えた安全・安心な施設であることが必要です。また、地域住民にとっても身近な施設であり、災害時における避難所や地域の活動拠点としての役割も担っています。

本町では、昭和60年代から平成8年までに、老朽化への対応として多くの学校施設の建て替えを行い、学校統合のための大規模な増改築など行ってきましたが、老朽化が進んでいる状況です。

学校・学校給食センター施設（以降、「学校施設等」と表記）を継続的に維持していくためには応分の費用が必要です。経年劣化の補修費用だけでなく、構造体の老朽化、部分的な部位の機能低下や設備機器の劣化、また利便性を向上させ将来的な教育課題に対応するためには多額の費用が必要となります。

### 2. 目的

「世羅町学校施設等の個別施設計画」は、前記の背景を踏まえて学校施設等を総合的な観点で捉えたうえ、長期使用できるものは適正に維持管理を行うこと。また、教育環境の質的改善も考慮しながら修繕や改修、建て替え等を検討するための判断の優先順位を設定しつつ、これに要する費用の縮減と平準化を図ることを目的として策定します。

なお、本計画は世羅町公共施設等総合管理計画（平成27年10月策定）を基底に策定することとします。

### 3. 計画期間

本計画は、令和3年度から令和42年度までの40年間を計画期間とします。

なお、児童生徒数の減少や社会情勢の変化に伴い、必要に応じた見直しは適宜行います。

### 4. 対象施設

本計画の対象施設は、小学校4校、中学校3校、学校給食センター2施設とします。

## 第2章 学校施設等のめざすべき姿

### 1. 基礎的・基本的な学力の定着と自主性を伸ばす教育環境の整備、学習空間の充実

基礎的・基本的な学力に基づき、児童・生徒の個性や能力を生かし、自主性を伸ばす環境整備が求められます。

### 2. 安心・安全な施設環境の整備

学校は、児童・生徒にとって「学びの場」であると同時に、1日の約3分の1を過ごす「生活の場」でもあることを認識し、安全・安心で有意義な学校生活を送ることができるよう、防犯や施設の安全性に配慮した施設環境の整備が必要です。

学校給食センターについては、成長期における子供に必要な栄養摂取面から、健康づくりや体力づくりの基礎となる安全・安心で安定した給食提供ができる施設整備が求められます。

### 3. 防災拠点としての施設整備

学校は地域の防災拠点、避難所としての役割を担う施設に位置付いていることから、非常時に配慮した施設の整備及び維持管理を行うことが必要です。

### 第3章 学校施設等の実態

#### 1. 学校施設等の運営状況・活用状況の実態

##### (1) 対象施設一覧

本町には、小学校4校、中学校3校、学校給食センター2施設の合計9施設があり、小学校の延床面積は16,412㎡、中学校の延床面積は16,030㎡、学校給食センターは1,174㎡、合計33,616㎡となります。

令和2年5月1日現在

区分	名称	所在地	児童・生徒数(人)		学級数	
			通常学級	特別支援	通常学級	特別支援
小学校	甲山小学校	小世良 69 番地 1	121	15	6	3
	せらひがし小学校	川尻 1987 番地 2	115	18	6	3
	世羅小学校	本郷 891 番地 1	302	19	11	3
	せらにし小学校	小国 4682 番地	104	11	6	2
	小 計		642	63	29	11
中学校	甲山中学校	西上原 1469 番地 1	111	9	4	2
	世羅中学校	寺町 961 番地 2	172	12	6	3
	世羅西中学校	黒川 10144 番地 4	46	3	3	1
	小 計		329	24	13	6
学校給食センター	世羅学校給食センター	本郷 1130 番地				
	せらにし学校給食センター	小国 4495 番地				
	小 計					
合 計			971	87	42	17

##### (2) 児童・生徒数及び学級数の変化

###### 【児童・生徒数】

これまでの推移

(人)

	S55 (1980)	S60 (1985)	H2 (1990)	H7 (1995)	H12 (2000)	H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	R2 (2020)
小学校 児童数	1,815	1,862	1,538	1,464	1,155	951	819	744	705
中学校 生徒数	802	919	943	756	702	542	445	421	353
計	2,617	2,781	2,481	2,220	1,857	1493	1,264	1,165	1,058

※毎年の学校基本調査による実績値

将来推計 (人)

	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)
小学校 児童数	622	561	520	492	466
中学校 生徒数	341	300	272	253	241
計	963	861	792	745	707

※「国立社会保障・人口問題研究所」のデータを引用

### 【学級数】

これまでの推移 (学級)

	S55 (1980)	S60 (1985)	H2 (1990)	H7 (1995)	H12 (2000)	H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	R2 (2020)
小学校 学級数	88	83	81	84	81	68	74	39	40
中学校 学級数	27	27	29	26	25	21	17	20	19
計	115	110	110	110	106	89	91	59	59

※毎年の学校基本調査による実績値

#### ○小学校

町内小学校の児童数は、令和2年5月1日現在で705人、40学級です。児童数のピークは昭和34年の5,008人で、現在はピーク時の約14%、令和27年度では約9%と推計されます。

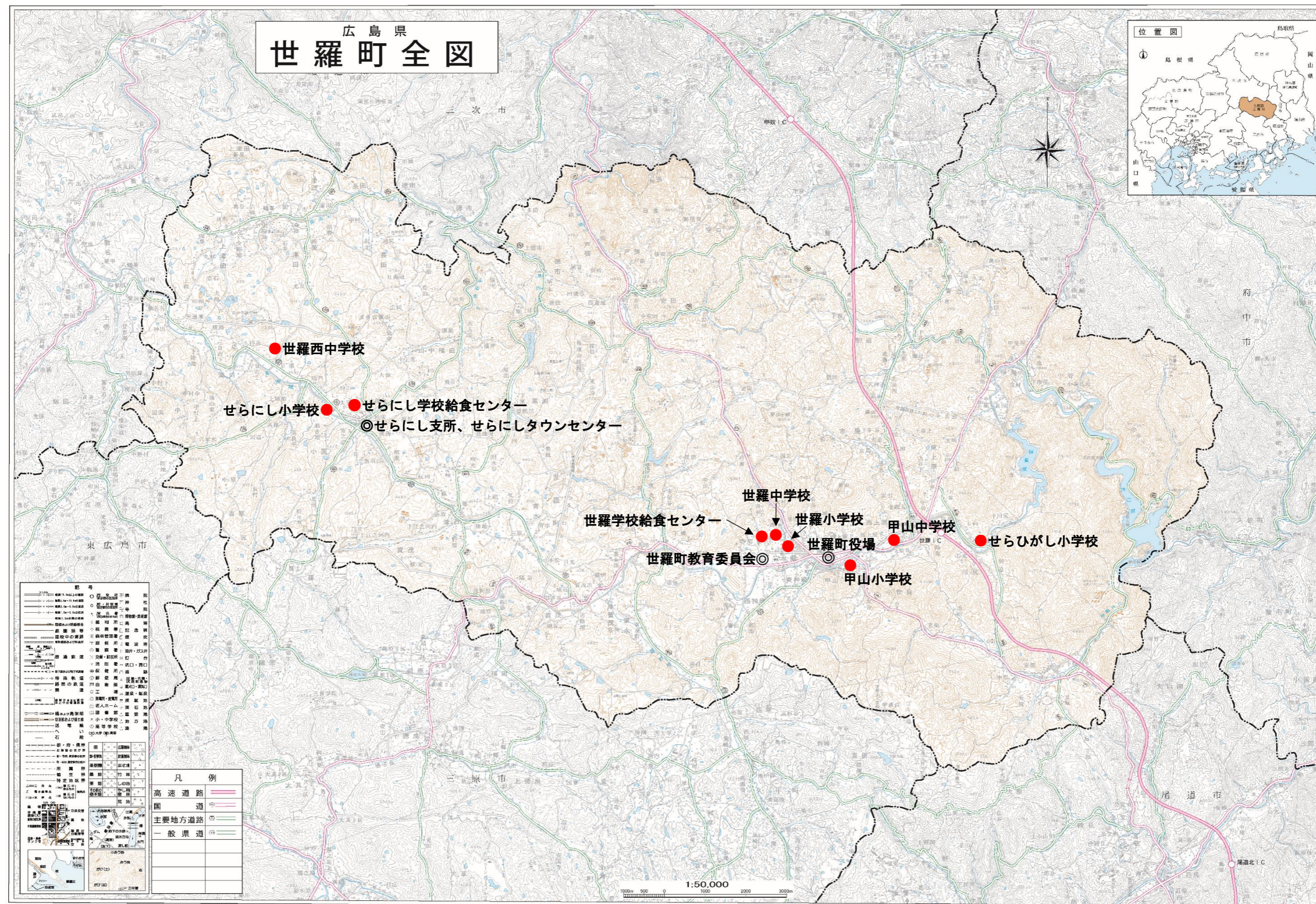
#### ○中学校

町内中学校の生徒数は、令和2年5月1日現在で353人、19学級です。生徒数のピークは昭和37年の2,637人で、現在はピーク時の約13%、令和27年度では約9%と推計されます。

#### ※ピーク時の設定について

昭和30年から33年までの町村合併を経て、世羅郡の区域が現在の世羅町と同一になった昭和34年以降で最も多い年度をピーク時と設定した。

(3) 学校施設等の配置状況



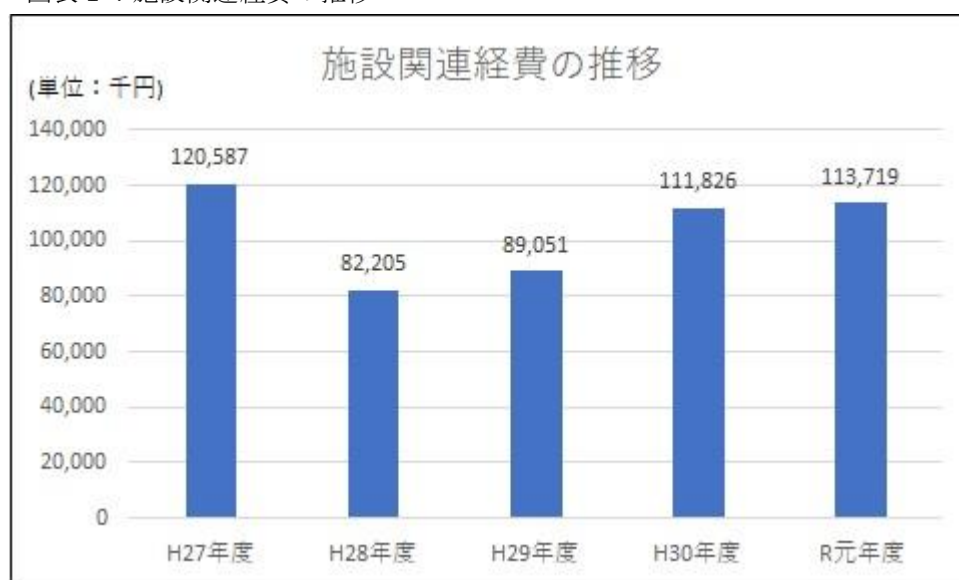
(4) 施設関連経費の推移

単位：千円

	H27年度 (2015)	H28年度 (2016)	H29年度 (2017)	H30年度 (2018)	R元年度 (2019)	平均
施設整備費	33,127	5,200	12,754	42,702	31,156	24,988
その他施設 関係経費	1,592	41	941	521	5,633	1,746
維持修繕費	21,994	14,537	12,051	14,313	16,329	15,845
光熱水費・ 委託費等	63,874	62,427	63,305	54,290	60,601	60,899
合 計	120,587	82,205	89,051	111,826	113,719	103,478

※決算額による実績値

図表1：施設関連経費の推移

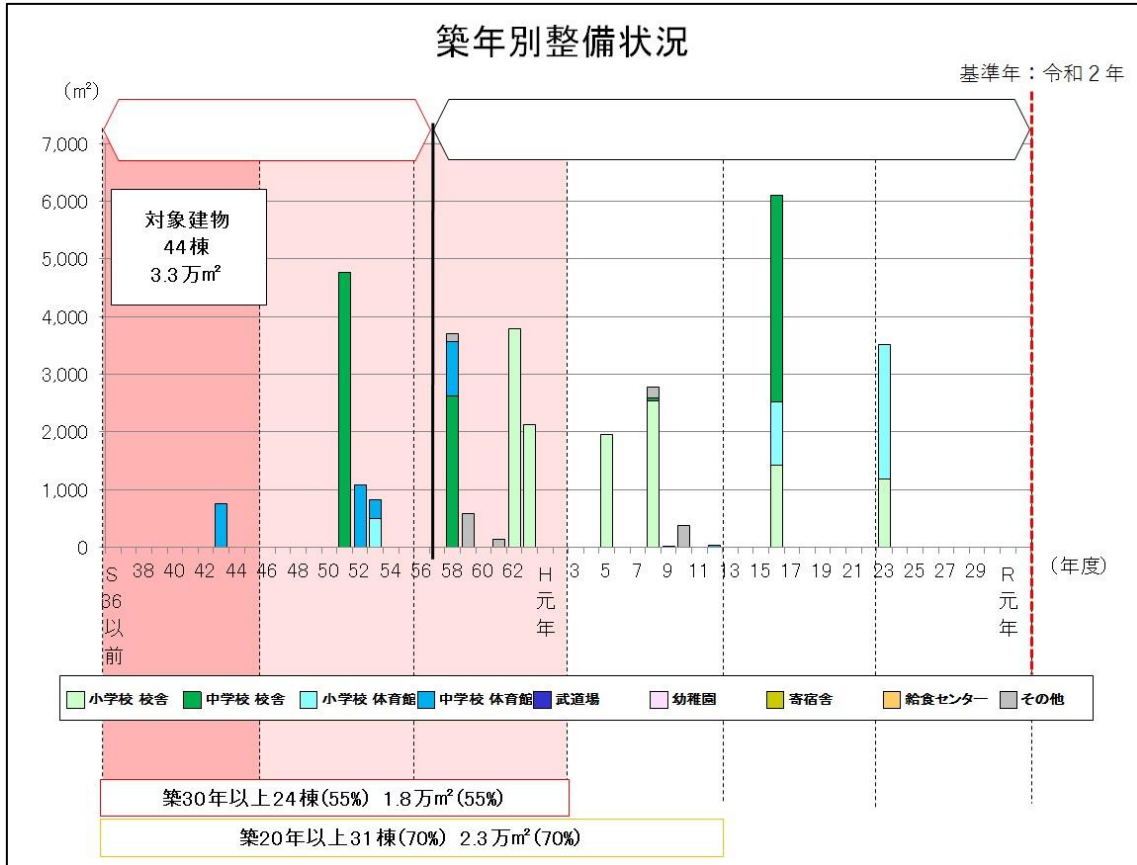




(5) 学校施設等の保有量

小学校、中学校、給食センターの施設は、建築後30年以上の建物が18,755㎡(65.8%)と老朽化が進んでいます。また、10年後は24,072㎡(71.6%)が建築後30年以上経過します。

図表2：築年別整備状況

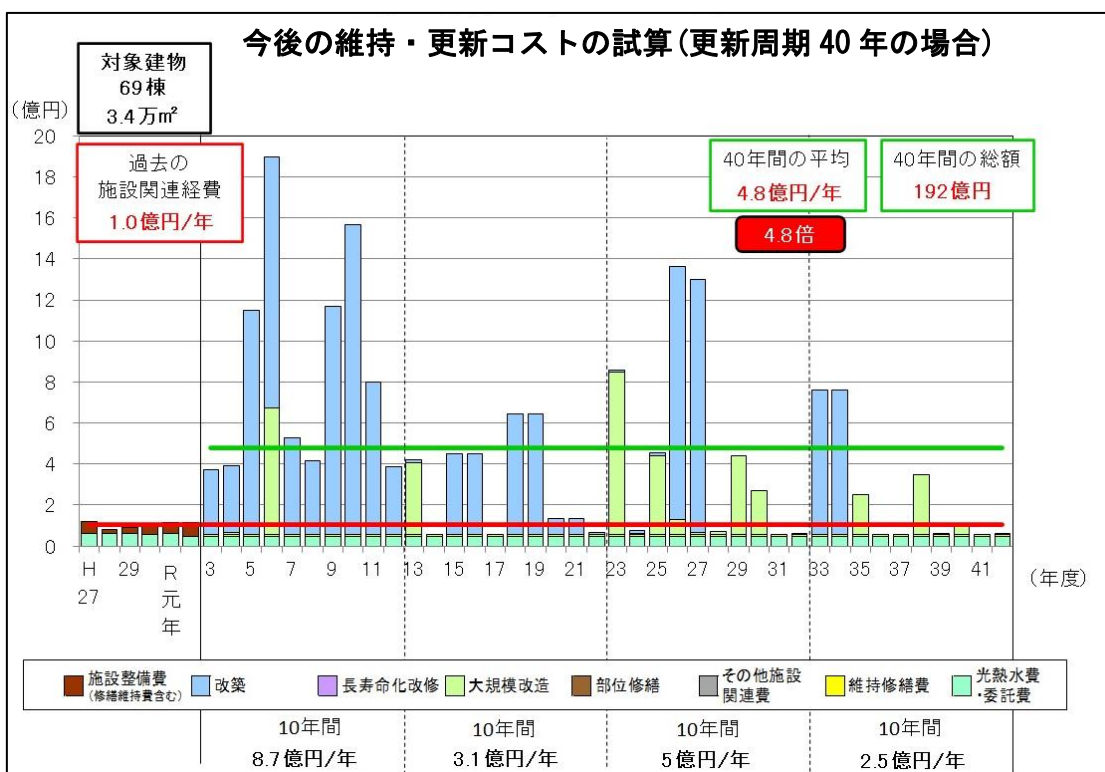


(6) 今後の維持・更新コストの試算（更新周期 40 年の場合）

建物の更新周期を 40 年として、今後 40 年間に必要な標準的コストを試算した場合、19,200,000 千円程度、年平均では 480,000 千円程度が必要となります。これは直近 5 年間実績平均の 103,478 千円を約 4.64 倍上回ります。

また、現有施設の建築年次からの経過年数によって、建て替えや改修が集中する年次では、直近 5 年間実績の平均経費の最大 20 倍以上のコストがかかります。

図表 3：今後の維持・更新コスト（更新周期 40 年の場合）の推移



2. 学校施設等の老朽化状況の実態

(1) 構造躯体の健全性の評価及び構造躯体の劣化状況等の評価

■:築50年以上  
■:築30年以上

基準年: 2020

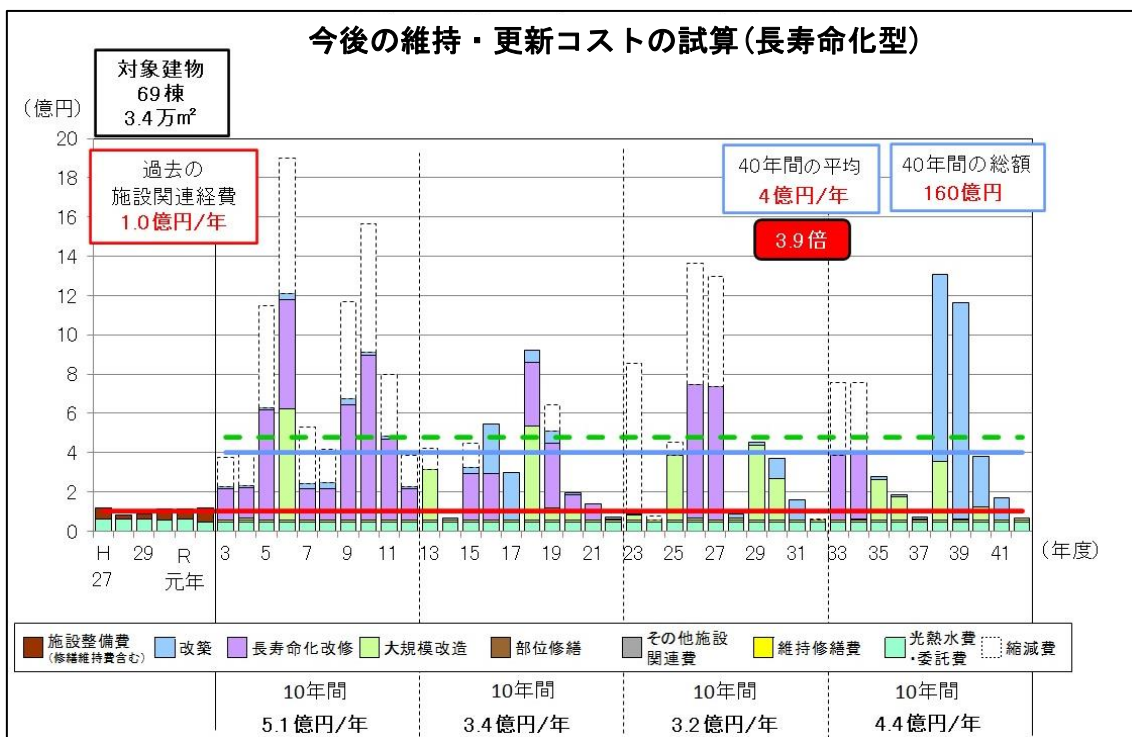
A:概ね良好  
B:部分的に劣化  
C:広範囲に劣化  
D:早急に対応の必要あり

建物基本情報											構造躯体の健全性			劣化状況評価					
番号	施設名	建物名	用途区分		構造	階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	建築年度		築年数	耐震安全性			屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度(100点満点)
			学校種別	建物用途				西暦	和暦		基準	診断	補強						
1	甲山小学校	校舎	小学校	校舎	RC	2	2,537	1996	H8	24	新	-	-	A	B	B	B	B	77
2	甲山小学校	屋内運動場	小学校	体育館	S	1	1,098	2011	H23	9	新	-	-	A	A	A	A	A	100
3	甲山小学校	校舎	小学校	校舎	RC	2	65	2011	H23	9	新	-	-	A	A	A	A	A	100
4	せらひがし小学校	屋内運動場	小学校	体育館	RC	1	504	1978	S53	42	旧	済	済	B	B	C	C	C	53
5	せらひがし小学校	校舎	小学校	校舎	RC	2	1,963	1993	H5	27	新	-	-	A	B	B	B	B	77
6	せらひがし小学校	校舎	小学校	校舎	RC	2	277	2011	H23	9	新	-	-	A	A	A	A	A	100
7	世羅小学校	校舎	小学校	校舎	RC	2	3,784	1987	S62	33	新	-	-	A	B	B	B	B	77
8	世羅小学校	屋内運動場	小学校	体育館	S	1	1,230	2011	H23	9	新	-	-	A	A	A	A	A	100
9	世羅小学校	校舎	小学校	校舎	RC	2	842	2011	H23	9	新	-	-	A	A	A	A	A	100
10	せらにし小学校	校舎	小学校	校舎	RC	2	2,069	1988	S63	32	新	-	-	B	B	B	B	B	75
11	せらにし小学校	地域・学校連携施設	小学校	その他	RC	1	61	1988	S63	32	新	-	-	B	B	B	B	B	75
12	せらにし小学校	校舎	小学校	校舎	RC	1	267	2004	H16	16	新	-	-	A	B	A	A	A	93
13	せらにし小学校	屋内運動場	小学校	体育館	RC	1	1,107	2004	H16	16	新	-	-	A	B	A	A	A	93
14	せらにし小学校	地域・学校連携施設	小学校	その他	RC	1	252	2004	H16	16	新	-	-	A	B	A	A	A	93
15	甲山中学校	屋内運動場	中学校	体育館	S	1	760	1968	S43	52	旧	済	済	C	C	C	C	C	40
16	甲山中学校	校舎	中学校	校舎	RC	2	2,307	2004	H16	16	新	-	-	A	B	A	A	A	93
17	甲山中学校	校舎	中学校	校舎	RC	2	1,083	2004	H16	16	新	-	-	A	B	A	A	A	93
18	甲山中学校	校舎	中学校	校舎	RC	2	902	2004	H16	16	新	-	-	A	B	A	A	A	93
19	甲山中学校	校舎	中学校	校舎	RC	2	97	2004	H16	16	新	-	-	B	B	A	A	A	91
20	甲山中学校	校舎	中学校	校舎	RC	2	97	2004	H16	16	新	-	-	B	B	A	A	A	91
21	世羅中学校	校舎	中学校	校舎	RC	2	1,736	1976	S51	44	旧	済	済	B	B	C	C	C	53
22	世羅中学校	校舎	中学校	校舎	RC	2	374	1976	S51	44	旧	済	済	B	B	C	C	C	53
23	世羅中学校	校舎	中学校	校舎	RC	2	233	1976	S51	44	旧	済	済	B	B	C	C	C	53
24	世羅中学校	校舎	中学校	校舎	RC	1	25	1976	S51	44	旧	済	済	B	B	C	C	C	53
25	世羅中学校	校舎	中学校	校舎	RC	2	1,620	1976	S51	44	旧	済	済	B	B	C	C	C	53
26	世羅中学校	校舎	中学校	校舎	S	1	494	1976	S51	44	旧	済	済	B	B	C	C	C	53
27	世羅中学校	屋内運動場	中学校	体育館	RC	1	1,076	1977	S52	43	旧	済	済	B	B	C	C	C	53
28	世羅中学校	屋内運動場	中学校	体育館	RC	1	317	1978	S53	42	旧	済	済	B	B	C	C	C	53
29	世羅中学校	屋内運動場	中学校	体育館	RC	1	36	2000	H12	20	新	-	-	B	B	B	B	B	75
30	世羅中学校	校舎	中学校	校舎	RC	1	38	1976	S51	44	旧	済	済	B	B	C	C	C	53
31	世羅中学校	校舎	中学校	校舎	RC	1	38	1976	S51	44	旧	済	済	B	B	C	C	C	53
32	世羅中学校	校舎	中学校	校舎	RC	1	76	1976	S51	44	旧	済	済	B	B	C	C	C	53
33	世羅中学校	校舎	中学校	校舎	RC	1	113	1976	S51	44	旧	済	済	B	B	C	C	C	53
34	世羅中学校	校舎	中学校	校舎	S	1	12	1976	S51	44	旧	済	済	B	B	C	C	C	53
35	世羅中学校	校舎	中学校	校舎	RC	1	15	1976	S51	44	旧	済	済	B	B	C	C	C	53
36	世羅中学校	部室	中学校	その他	S	1	201	1996	H8	24	新	-	-	C	B	B	B	B	72
37	世羅西中学校	校舎	中学校	校舎	RC	2	2,623	1983	S58	37	新	-	-	B	B	B	B	B	75
38	世羅西中学校	校舎	中学校	校舎	RC	2	47	1996	H8	24	新	-	-	B	B	B	B	B	75
39	世羅西中学校	屋内運動場	中学校	体育館	RC	1	951	1983	S58	37	新	-	-	B	B	B	B	B	75
40	世羅西中学校	地域・学校連携施設	中学校	その他	RC	1	126	1983	S58	37	新	-	-	B	B	B	B	B	75
41	世羅西中学校	屋内運動場	中学校	体育館	S	1	4	1997	H9	23	新	-	-	B	B	B	B	B	75
42	世羅学校給食センター	共同利用施設	給食センター	給食センター	S	1	593	1984	S59	36	新	-	-	B	B	B	B	B	75
43	世羅学校給食センター	共同利用施設	給食センター	給食センター	S	1	144	1986	S61	34	新	-	-	C	B	B	B	B	72
44	せらにし学校給食センター	共同利用施設	給食センター	給食センター	S	1	386	1998	H10	22	新	-	-	B	B	B	B	B	75

(2) 今後の維持・更新コストの試算（長寿命化型）

長寿命化により建物の寿命を80年間に延伸した場合の標準的コスト試算では、今後40年間の標準的維持・管理コストは総額16,000,000千円（4,000,000千円/年）となり、建物の更新周期を40年とした場合の19,200,000千円（480,000千円/年）より総額で3,200,000千円（80,000千円/年）、約17%の縮減となりますが、過去5年間平均の103,478千円に対して約3.9倍上回ることが予測されます。

図表4：今後の維持・更新コスト（長寿命化型）



## 第4章 学校施設等整備の基本的な方針

### 1. 世羅町公共施設等総合管理計画の基本方針

世羅町公共施設等総合管理計画ではつぎの5点の基本方針に基づき、公共施設の効率的な管理を進めることとしています。

#### 【基本方針1】総量縮減の推進

平成27年3月末と比較し、平成28年度から令和22年度までの25年間で30%以上の総延面積削減を目標とします。

#### 【基本方針2】長寿命化の推進

今後も活用していく公共施設等については、計画的な維持修繕の実施により、長期にわたる安全・安心なサービスの提供に努めるとともに、財政負担の軽減を図り、世羅町行政の持続可能性を確保していきます。

#### 【基本方針3】多様な主体による施設サービスの提供

民活促進による財政負担の軽減とサービス水準の向上を図り、民間施設の活用等も検討し、公共施設に頼らない公共サービスの提供を推進します。

#### 【基本方針4】地方創生への施設の活用

町有建物の民間での利活用を検討し、働く場の確保による定住促進など、地方創生への有効活用に努めます。

#### 【基本方針5】将来的な住民ニーズへの対応

将来的な住民ニーズの予測や政策適合性を加味し、長期的な施設の方向性を検討します。

### 2. 学校施設等の長寿命化の基本方針

今後も活用していく学校施設等の長寿命化にあたっては、世羅町公共施設等総合管理計画「基本方針2」のとおり、計画的な取り組みによる「事後保全」から、「予防保全」への転換が必要です。そのため、屋上や屋根の防水、外壁、内装の改修、電気や給排水設備など、専門家による計画的・定期的な点検と合わせ、現地における日常的な点検励行による状況把握から、不具合の未然防止を図ります。

また、今後の児童生徒数を踏まえ、施設の機能や能力面も考慮し、今後の教育課題やそれらに対する国・県の動向も見定めながら、必要に応じた施設・設備の長寿命化、部分更新などの整備を行うべきと考えます。

なお、実施にあたっては、国・県の補助金・交付金等も活用した財源確保に努めます。

### 3. 学校施設等の規模・配置計画等の方針

世羅町の小中学校は町内にバランス良く配置されておりますが、今後の児童生徒数の状況に応じ、各学校の適切な規模の維持を図る必要があります。また、学校給食センターは、老朽化や児童生徒数の推移、食育推進の観点から求められる機能等を踏まえた配置の検討が必要です。

### 4. 改修等の基本的な方針

#### (1) 長寿命化の方針

再生整備や予防保全により、内外装改修や設備改修などの老朽化対策や教育環境の質的向上を図り、効率的に維持管理を行うとともに長寿命化を促進し、財政支出の縮減と平準化に努めます。

学校体育館については、避難場所の中心的な役割を果たすことから、相互的な防災機能を備えた体育館としての役割が果たせるよう適切な維持管理に努め、老朽化の予防保全を実施します。

#### (2) 目標使用年数、改修周期の設定

長寿命化の促進による施設の目標使用年数と改修周期は概ね次のとおりとします。

区 分	目標使用	大規模改修の周期	長寿命化改修の周期
校 舎	築 80 年	築 40 年	築 60 年
体育館	築 80 年	築 40 年	築 60 年
給食センター	状況等を踏まえ適宜	状況等を踏まえ適宜	状況等を踏まえ適宜

ただし、学校施設等の適切な規模の維持を踏まえ、将来的な配置を見直す場合はこの限りではありません。

## 第5章 基本的な方針を踏まえた施設整備の水準等

### 1. 改修等の整備水準

必要な予防保全を基本とし、部位ごとの計画更新年数に基づき、建築や最終改修からの経過年数及び部位の劣化状況に応じて、周期的に改修を行うものとします。

また、建築物の機能を長期にわたり最大限発揮できるように、経年劣化による建築物への影響が大きい部位については、計画的な予防保全を基本とし、経年による機能的な劣化が少ないと考えられる、例えば内装等の部位については事後保全として必要に応じて、その都度の改修とします。

### 2. 維持管理の項目・手法等

次の様式に定める項目により、原則として5年毎に点検を実施します。

通し番号		学校名		学校番号		調査日		
建物名		棟番号		建築年度		記入者		
構造種別		延床面積		m <sup>2</sup>		年度( )年度)		
		階数		地上		階		
		地下		階				
部位	仕様 (該当する項目にチェック)	工事履歴(部位の更新)		劣化状況 (複数回答可)		箇所数	特記事項	評価
1 屋根	<input type="checkbox"/> アスファルト保護防水 <input type="checkbox"/> アスファルト露出防水 <input type="checkbox"/> シート防水、塗膜防水 <input type="checkbox"/> 勾配屋根(長尺金属板、折板) <input type="checkbox"/> 勾配屋根(スレート、瓦類) <input type="checkbox"/> その他の屋根 ( )	年度	工事内容	<input type="checkbox"/> 降雨時に雨漏りがある <input type="checkbox"/> 天井等に雨漏り痕がある <input type="checkbox"/> 防水層に膨れ・破れ等がある <input type="checkbox"/> 屋根葺材に錆・損傷がある <input type="checkbox"/> 笠木・立上り等に損傷がある <input type="checkbox"/> 樋やルーフレンを目視点検できない <input type="checkbox"/> 既存点検等で指摘がある				
2 外壁	<input type="checkbox"/> 塗仕上げ <input type="checkbox"/> タイル張り、石張り <input type="checkbox"/> 金属系パネル <input type="checkbox"/> コンクリート系パネル(ALC等) <input type="checkbox"/> その他の外壁 ( ) <input type="checkbox"/> アルミ製サッシ <input type="checkbox"/> 鋼製サッシ <input type="checkbox"/> 断熱サッシ、省エネガラス			<input type="checkbox"/> 鉄筋が見えているところがある <input type="checkbox"/> 外壁から漏水がある <input type="checkbox"/> 塗装の剥がれ <input type="checkbox"/> タイルや石が剥がれている <input type="checkbox"/> 大きな亀裂がある <input type="checkbox"/> 窓・ドアの廻りで漏水がある <input type="checkbox"/> 窓・ドアに錆・腐食・変形がある <input type="checkbox"/> 外部手すり等の錆・腐朽 <input type="checkbox"/> 既存点検等で指摘がある				
3 内部仕上 (床・壁・天井) (内部建具) (間仕切等) (照明器具) (エアコン)等	修繕・点検項目	改修・点検年度	特記事項(改修内容及び点検等による指摘事項)		評価			
	<input type="checkbox"/> 老朽改修 <input type="checkbox"/> エコ改修 <input type="checkbox"/> トイレ改修 <input type="checkbox"/> 法令適合 <input type="checkbox"/> 校内LAN <input type="checkbox"/> 空調設置 <input type="checkbox"/> 障害児等対策 <input type="checkbox"/> 防犯対策 <input type="checkbox"/> 構造体の耐震対策 <input type="checkbox"/> 非構造部材の耐震対策 <input type="checkbox"/> その他、内部改修工事							
4 電気設備	<input type="checkbox"/> 分電盤改修 <input type="checkbox"/> 配線等の敷設工事 <input type="checkbox"/> 昇降設備保守点検 <input type="checkbox"/> その他、電気設備改修工事							
5 機械設備	<input type="checkbox"/> 給水配管改修 <input type="checkbox"/> 排水配管改修 <input type="checkbox"/> 消防設備の点検 <input type="checkbox"/> その他、機械設備改修工事		必要な修繕や部品交換等は随時実施					
特記事項(改修工事内容や12案点検、消防点検など、各種点検等による指摘事項があれば、該当部位と指摘内容を記載)								
						健全度		
						0	100点	

## 第6章 長寿命化の実施計画

### 1. 改修等の優先順位付けと実施計画

長寿命化を行う学校施設等の優先順位については、建物の状態に応じてつぎのとおりグループに区分します。各グループ内での優先順位は、今後の状況を踏まえ適宜変更可能としますが、原則建築年順とします。

また、下記のグループによらず、規模や機能、施設の能力や目的等を考慮し、改修や建て替えが必要な施設は、建築年順によらず実施するものとします。

なお第4章に記載のとおり、学校施設等の適切な規模の維持を踏まえ、将来的な配置を見直す場合はこの限りではありません。

グループ① 建築後 50 年程度経過し、躯体の老朽化が進んでいるもの。

甲山中学校 屋内運動場 他

グループ② 建築後 35 年～50 年程度経過し、大規模改修を行っていないもの。

該当なし

グループ③ 建築後 35 年～50 年程度経過し、大規模改修を行ったもの。

せらひがし小学校 屋内運動場 世羅中学校 校舎、屋内運動場 他

グループ④ 建築後 40 年未満で、旧耐震のもの。

該当なし

グループ⑤ グループ①～④に該当せず、新耐震基準のもの。

甲山小学校 校舎、屋内運動場 せらひがし小学校 校舎

世羅小学校 校舎、屋内運動場 せらにし小学校 校舎、屋内運動場

甲山中学校 校舎 他

### 2. 長寿命化コストの見直し、長寿命化の効果

学校施設等に関する将来の工事費について、「更新周期 40 年」の場合と、長寿命化を行った場合の「築後 80 年での建て替え」のシミュレーションを行って標準的コストを算出し、比較を行いました。

「更新周期 40 年」では、今後 40 年間の標準的な平均コストが 480,000 千円、「築後 80 年での建て替え」では、今後 40 年の標準的な平均コストは 40,000 千円と縮減が見込まれ、長寿命化を行った場合は、一定の効果が発現するものと考えます。

※P 8 図表 3、P 10 図表 4 参照



## 第7章 計画の継続的運用方針

### 1. 情報基盤の整備と活用

計画の見直し等を行うための基礎資料とするため、学校施設等の実態において把握した項目や、それに基づく維持管理の項目や手法等において設定した維持管理項目の点検・調査結果等を踏まえ、施設の状態や過去の改修・修繕履歴、事故・故障の発生状況などをデータベース化し管理します。

管理にあたっては、毎年取りまとめている「公立学校施設台帳」に一定の情報が蓄積されているため、その情報を活用します。

当該データベースは、12条点検等の法定点検の結果等、継続的な点検・調査の結果に基づいて、適切に更新を行っていきます。

### 2. 推進体制の整備

今後も施設の老朽化は進行するため、関係課や学校と連携・協力しながら劣化状況を的確に把握し、学習活動への適応状況などの実態把握と評価を定期的かつ継続的に行い、把握した情報や評価結果に基づき施設カルテを更新し、より効果的な整備メニューの検討や保全計画の見直しを検討する必要があります。

今後は、本計画も踏まえた改修等を確実に実施するため、引き続き庁舎内横断的な連携を図ります。

### 3. フォローアップ

定期的に計画の進捗状況等についてフォローアップを実施し、目標の達成状況を正確に把握します。また、把握した状況を踏まえて、5年程度を目安に計画を更新することとします。その際は、施設の老朽化に関する点検・評価の結果を踏まえたものとします。